

# Briefing Transcription

|| 2025 年 11 月期 決算説明文字起こし ||

## AHC グループ株式会社

7083 東証グロース市場

企業情報はこちら >>>

紹介動画はこちら>>>

2026 年 2 月 6 日 (金)

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日（金）  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

## ■目次

■ 決算説明を受けての FISCO アナリストコメント	-----	1
■ 出演者	-----	2
■ 決算説明	-----	3

AHC グループ株式会社 | 2026 年 2 月 6 日 (金)  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

## ■決算説明を受けての

### FISCO アナリストコメント

- ・2025 年 11 月期は增收ながら減益、かつ利益面では事前予想を下回る着地となった。期中での営業利益の減益は、福祉事業で計画を上回る 7 事業所開設が進んでいたこともあり、通期予想での営業利益は前期比 34.4% 増の 172 百万円だったが、期末にかけての 1~2 ヶ月においてインフレによる施設閉鎖などの影響を受けた。
- ・2026 年 11 月期は前期開設された福祉事業における事業所の通期寄与にくわえ、介護の収益性改善も進み、利益は巡航速度で増益に転じる見込み。
- ・資本業務提携により、福祉の業界に活用の遅れている e ラーニングでの学びの場、生成 AI を活用した業務効率化などをグループ内にジョイント、新たな成長ストーリーも付加されている点に変化はない。AI 支援記録アプリを活用する外部施設を 30 度から数年程度で 200 へ増加させ、新たなストックビジネスも付加される。2027 年 11 月期を最終年度とする中期業績計画は、売上高で 7,563 百万円（今期予想 6,622 百万円）、営業利益で 330 百万円（172 百万円）が見込まれている。
- ・介護や障がい者支援をつける類似企業と比較した場合、コロナ禍による収益悪化の影響もあり、同社の収益性、成長性の数値に特段目立った数値はない。ただ、障がい者支援が成長軌道に乗りつつある現状において、類似企業と比較して規模感の小さい同社の成長性は今後、極めて大きくなることが想像に難くない。中期業績計画を達成した時点で PER が少なくとも 15 倍の評価であるとされた場合の時価総額は 30 億円程度が試算される（現在 18 億円）。成長スピードの加速が認識されると、それに応じた PER 評価となろう。

AHCグループ株式会社 | 2026年2月6日（金）  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

## ■出演者

**AHCグループ株式会社**

**代表取締役社長**

**荒木 善貴様**

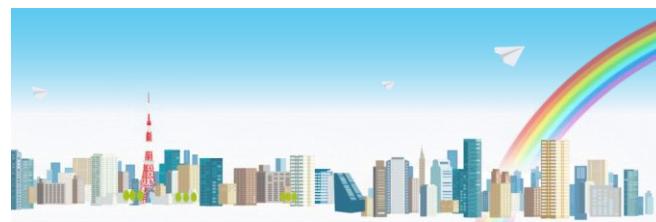
AHCグループ株式会社 | 2026年2月6日（金）  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

## ■決算説明

2026年1月30日



2025年11月期 決算説明資料  
AHCグループ株式会社  
証券コード：7083



### ■AHCグループ荒木

皆様、ご視聴いただきありがとうございます。AHCグループ株式会社代表取締役社長の荒木でございます。  
2025年11月期決算の内容についてご説明いたします。

### 1.2025年11月期 実績 連結決算概要（前期比） 3

■ 売上高は前期および当期開設の事業所の影響で前期比382百万円増の6,660百万円となつたが、新規開設の事業所に係る費用や人件費、物価の高騰などにより営業利益は19百万円減の108百万円、さらに減損損失の計上などにより親会社株主に帰属する当期純利益は97百万円減の1百万円となつた

	2024年11月期 実績 (2023/12～2024/11)		2025年11月期 実績 (2024/12～2025/11)		前期比 増減額	前期比 増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	6,277	100.0%	6,660	100.0%	382	6.1%
売上原価	5,595	89.1%	5,952	89.4%	356	6.4%
売上総利益	682	10.9%	707	10.6%	25	3.8%
販売費及び一般管理費	554	8.8%	598	9.0%	44	8.1%
営業利益	128	2.0%	108	1.6%	△19	△14.9%
経常利益	154	2.5%	127	1.9%	△27	△17.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	98	1.6%	1	0.0%	△97	△99.0%



2026 AHC GROUP INC.

はじめに、連結決算の概要についてご説明いたします。

前期との比較では、前期当期に開設した事業所が順調に立ち上がったことに加え、外食事業において食材の外部販売が拡大したことから、売上高は66億6,000万円となりました。これは、前期の62億7,700万円に対し、3億8,200万円の増加となります。

売上原価は59億5,200万円となり、前期の55億9,500万円に対して3億5,600万円増加いたしました。

また、販売費及び一般管理費は5億9,800万円と、前期の5億5,400万円に比べ、4,400万円の増加となっております。

これらの結果、営業利益は1億800万円、経常利益は1億2,700万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、減損損失などの計上により、100万円となっております。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日(金)  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

1.2025年11月期 実績 | 連結決算概要(予想比) | 4

- 売上高は福祉・介護で未達となったものの外食が伸び、予想を達成した
- 営業利益は、物価の上昇などにより予想を下回った

	2025年11月期 予想 (2024/12~2025/11)		2025年11月期 実績 (2024/12~2025/11)		予想比 増減額	予想比 増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	6,622	100.0%	6,660	100.0%	37	0.6%
営業利益	172	2.6%	108	1.6%	△63	△36.7%
経常利益	163	2.5%	127	1.9%	△35	△22.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	110	1.7%	1	0.0%	△109	△99.1%



2026 AHC GROUP INC.

続いて、業績予想との対比についてご説明いたします。

売上高につきましては、福祉事業及び介護事業では計画未達となったものの、外食事業において計画を達成した結果、全体では業績予想に対して3,700万円の上振れとなりました。

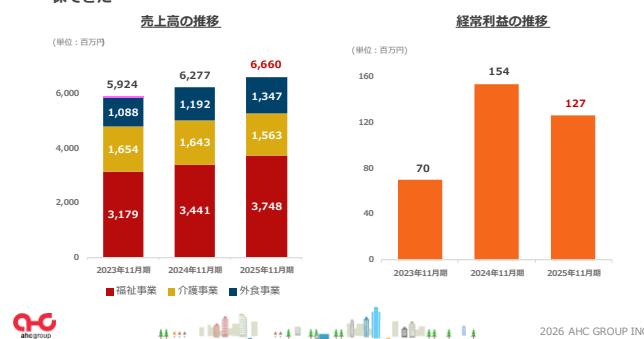
営業利益につきましては、仕入れ食材費及び人件費の増加を受け、計画を下回り、業績予想に対して6,300万円のマイナスとなりました。

経常利益につきましては、想定を上回る助成金の受給があったものの、全体としては業績予想に対して3,500万円のマイナスとなっております。

当期純利益につきましては、減損損失などの計上により、業績予想に対して1億900万円のマイナスとなりました。

1.2025年11月期 実績 | 連結業績推移(通期) | 5

- 売上高は福祉・外食が順調に伸長し6,660百万円を達成した
- 経常利益については新規事業所や人件費、物価の高騰があったものの127百万円を確保できた



2026 AHC GROUP INC.

続いて、連結業績の推移についてご説明いたします。

売上高は、福祉事業及び外食事業が順調に推移した結果、66億6,000万円となりました。

経常利益は、費用の増加により前期は下回ったものの、前々期を上回る1億2,700万円を確保しております。

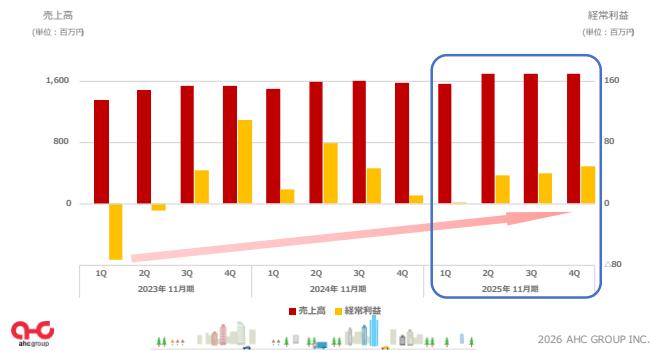
AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日(金)  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

### 1.2025年11月期 実績

### 四半期推移

6

■ 10四半期継続して経常利益を確保することができた



2026 AHC GROUP INC.

また、四半期別の推移におきましても、前期に引き続き、各四半期を通じて経常利益を確保することができました。

### 1.2025年11月期 実績

### 売上原価・販売費及び一般管理費

7

■ 売上原価は外食の食材販売の拡大により食材費が増加したほか、人件費が上昇したこと、物価高騰の影響により増加した

■ 販売費及び一般管理費についてはM&Aによるのれん償却の計上などにより増加した

	2024年11月期 実績 (2023/12～2024/11)		2025年11月期 実績 (2024/12～2025/11)		前期比 増減額	前期比 増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	6,277	100.0%	6,660	100.0%	382	6.1%
売上原価	5,595	89.1%	5,952	89.4%	356	6.4%
(人件費)	2,693	42.9%	2,775	41.7%	82	3.1%
(原価外食食材費)	618	9.8%	774	11.6%	156	25.3%
(地代家賃)	571	9.1%	589	8.8%	17	3.1%
(その他)	1,713	27.3%	1,812	27.2%	99	5.8%
販売費及び一般管理費	554	8.8%	598	9.0%	44	8.1%
(人件費)	90	1.4%	98	1.5%	8	9.3%
(のれん償却)	33	0.5%	46	0.7%	13	41.3%
(その他)	430	6.9%	453	6.8%	22	5.3%
営業利益	128	2.0%	108	1.6%	△19	△14.9%

2026 AHC GROUP INC.

次に、売上原価及び販売費・一般管理費についてご説明いたします。

売上原価は、前期と比較して3億5,600万円増加いたしました。

売上原価率は、前期の89.1%から本期は89.4%となり、0.3ポイントの上昇となっております。

その主な内訳としましては、食材の外部販売拡大に伴い、食材費が1億5,600万円増加したことなどが挙げられます。

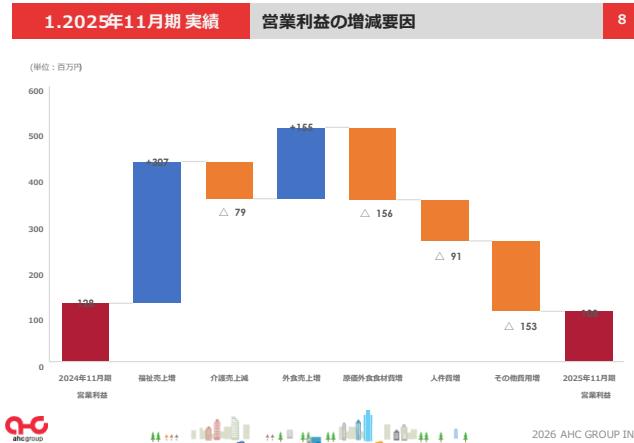
人件費につきましては、前期に開設した事業所の立ち上がりなどにより、前期比で8,200万円の増加となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、M&Aの実施に伴い、のれん償却費が増加したことなどから、前期比で4,400万円の増加となりました。

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日 (金)

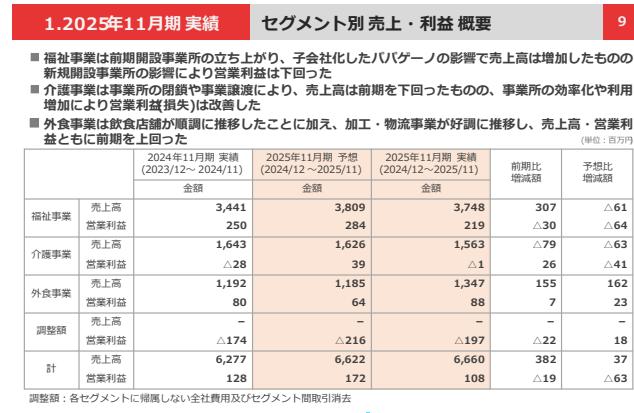
7083 東証グロース市場

<https://ahc.co.jp/ir/>



営業利益の増減要因についてご説明いたします。

福祉事業及び外食事業において売上高は大きく増加したものの、食材費や人件費をはじめとする各種経費が増加したことにより、営業利益は前期を下回る結果となりました。



続いて、セグメント別の売上高及び利益の概要についてご説明いたします。

福祉事業につきましては、前期に開設した事業所が順調に立ち上がったことに加え、既存事業所の稼働率が向上したことから、売上高は前期比3億700万円増の37億4,800万円となりました。一方で、新規事業所の開設に伴うコスト増の影響を受け、営業利益は前期比3,000万円減の2億1,900万円となっております。

介護事業につきましては、事業所の閉鎖などにより、売上高は前期比7,900万円減の15億6,300万円となりました。一方で、事業所運営の効率化を進めた結果、営業利益は前期比2,600万円増の100万円のマイナスとなっております。

外食事業につきましては、飲食店舗の業績が概ね想定どおりに推移したことに加え、食材の外部販売が順調に拡大した結果、売上高は前期比1億5,500万円増の13億4,700万円となりました。

また、営業利益は前期比700万円増の8,800万円となっております。

食材の外部販売につきましては、年々その構成比を高めており、今期の外食事業セグメントにおいては、売上高の2割を超える水準にまで拡大いたしました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日(金)  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

1.2025年11月期 実績 | 事業所(拠点)の新規開設

10

2025年11月期は合計7事業所を開設  
計画(着期):生活介護2、共同生活援助1、就労継続支援B型2、児童発達支援1  
実績(着期):生活介護3、共同生活援助2、就労継続支援B型1、児童発達支援1

■ 福祉事業: 7事業所開設

生活介護\_3事業所

- 「アフリケアワークス蘇我」(2月)
- 「アフリケアワークス上福岡駅西口」(5月)
- 「アフリケアワークス亀山」(6月)

共同生活援助(グループホーム)\_2事業所

- 「Beetle姫名大山田」(9月)
- 「Beetle藤沢本町2号館」(10月)

就労継続支援B型\_1事業所

- 「ハイゲーノ Work & Recovery用賀」(3月)

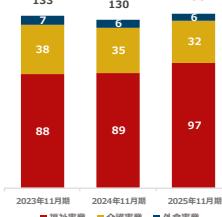
児童発達支援\_1事業所

- 「アブリキッズ四日市小古曾」(11月)

※福祉: 就労継続支援B型 1事業所を取得

※介護 デイサービス 2事業所閉鎖・1事業所譲渡

事業所数の推移



2026 AHC GROUP INC.

続いて、2025年11月期における事業所の開設状況についてご説明いたします。

福祉事業におきましては、生活介護を3事業所、共同生活援助を2事業所、就労継続支援B型を1事業所、児童発達支援を1事業所開設し、合計7事業所と、計画を上回る開設数となりました。

また、M&Aにより、就労継続支援B型事業所を1事業所所取得しております。

これらの結果、グループ全体の事業所数は、福祉事業97事業所、介護事業32事業所、外食事業6店舗の合計135事業所となりました。

1.2025年11月期 実績

貸借対照表の増減要因

11

	2024年11月期実績	2025年11月期実績	前期比 増減額
流動資産	3,568	3,685	116
固定資産	2,229	2,398	168
(有形固定資産)	1,239	1,351	112
(無形固定資産)	303	363	59
(投資その他の資産)	686	683	△2
総資産	5,798	6,083	285
負債	4,593	4,904	311
(流動負債)	1,251	1,467	215
(固定負債)	3,341	3,436	95
純資産	1,204	1,179	△25

■ 流動資産の増減要因

- 売上高増加による
- 売掛金の増加(+34百万円)
- 現金及び預金の増加(+21百万円)

■ 固定資産の増減要因

- 事業所新規開設による
- 土地・建物等の増加(+189百万円)
- 減価償却累計額の増加(△66百万円)
- M&Aによるのれんの増加(+61百万円)

■ 負債の増減要因

- 借入金の増加(+299百万円)

■ 純資産の増減要因

- 新規発行による
- 資本金の増加(+13百万円)
- 資本剰余金の増加(+9百万円)

- 配当金による利益剰余金の減少(△19百万円)

- 自己株式の増加(△27百万円)



2026 AHC GROUP INC.

次に、貸借対照表の増減についてご説明いたします。

流動資産につきましては、売上高の増加などを背景に、前期末比で1億1,600万円増加いたしました。

固定資産につきましては、事業所の新規開設に伴う土地・建物の取得に加え、M&Aによるのれんの増加などにより、前期末比で1億6,800万円の増加となっております。

負債につきましては、借入金の増加などにより、前期末比で3億1,100万円増加いたしました。

純資産につきましては、配当の実施及び自己株式の取得などにより、前期末比で2,500万円の減少となっております。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日（金）  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

1.2025年11月期 実績 キャッシュ・フローの状況 12

	2024年11月期 実績	2025年11月期 実績
税金等調整前当期純利益	148	58
営業活動によるC F	439	192
有形固定資産の取得による支出	△224	△280
投資有価証券の取得による支出	△89	△3
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△87
投資活動によるC F	△358	△395
長期借入れによる収入	933	950
借入金返済による支出	△583	△669
自己株式の取得による支出	△58	△32
配当金の支払額	—	△20
財務活動によるC F	290	224
現金及び現金同等物の増減額	371	21
現金及び現金同等物の期首残高	2,047	2,419
現金及び現金同等物の期末残高	2,419	2,440



2026 AHC GROUP INC.

キャッシュ・フローの状況につきましては、資料に記載のとおりです。

2.2025年11月期 主要取組事項 3つの主要取組 14

主要取組① 事業の拡大	・事業所の新規開設 ・「AI支援さん」の販路開拓、拡大
主要取組② DXの推進	・ITを活用した業務効率化 ・AI活用の推進
主要取組③ 業務提携の進捗	・ITを活かした就労支援業態の確立 株式会社manaby 株式会社パパゲーノ



2026 AHC GROUP INC.

続いて、2025年11月期における主要な取り組みの成果についてご説明いたします。

当期は、大きく三つの重点施策に取り組んでまいりました。

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日(金)  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

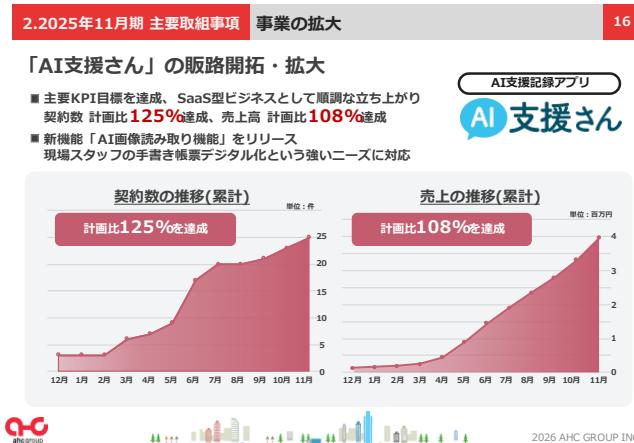


一つ目は、事業の拡大です。

具体的には、事業所の新規開設と「AI支援さん」の販路拡大に注力いたしました。

事業所の新規開設につきましては、当期は計画を上回る7事業所の開設を実現しております。

特に、学校卒業後の自立支援の場として、生活介護や共同生活援助などの事業所を中心に関設し、既存地域における福祉サービスの充実に貢献いたしました。



「AI支援さん」の販路拡大につきましては、外部事業者への導入が順調に進み、年間契約数は計画比125%となる25件、年間売上高は計画比108%の約400万円を達成し、いずれも計画を上回る結果となりました。また、利用事業者からの要望を踏まえた機能追加など、サービスのアップデートも継続的に実施しております。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日（金）  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

2.2025年11月期 主要取組事項 | DXの推進 | 17

ITとAIを活用し業務の効率化・改革を推進

<p><b>ITを活用した業務効率化</b></p> <p>課題：多拠点・多事業を展開する中で、本社と現場間の連携に重複作業が発生し、非効率な業務プロセスが存在</p> <p>取組：第一弾の取組みとして、売掛管理の業務領域において、システムによる自動化を試行</p> <p>今後：部分的な効率化が確認できたため、今後は全社的な「データ資産化」や「拡張性」のあるシステム開発に向け、抜本的なシステム基盤構築に着手</p>	<p><b>AI活用の推進</b></p> <p>課題：現場では自治体ごとに異なる様式をアノログで資料を作成</p> <p>取組：現場で「AI支援さん」を導入し、従業員の業務負担削減</p> <p>今後：継続して「AI支援さん」の導入を拡大 現場でのAI活用を推進し、従業員の業務負担削減</p>
---	--



2026 AHC GROUP INC.

二つ目は、DXの推進です。

ITを活用した業務効率化の取り組みとして、本社と現場間における業務プロセスの効率化を進めてまいりました。今後は、これらの取り組みをさらに発展させ、全社規模での効率化を実現するため、各種データを統合的に管理するシステム基盤の構築に着手してまいります。また、AI活用の推進においては、「AI支援さん」の導入範囲を拡大するなどし、従業員の業務負担軽減を進めてまいりました。

2.2025年11月期 主要取組事項 | 資本業務提携の進捗 | 18

ITを活かした就労支援業態の確立

<p><b>manaby</b></p> <p>■ 既存事業所を「manaby型」にリニューアルし、manabyのノウハウを導入</p> <p>■ 就労移行支援業態としてのサービス品質と競争力が向上し、利用者の増加と多数の一般就労者を輩出</p> <p>就労移行支援業態 利用登録者数の推移</p> <table border="1"> <caption>就労移行支援業態 利用登録者数の推移</caption> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>登録者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2023年12月</td><td>18</td></tr> <tr><td>2024年5月</td><td>16</td></tr> <tr><td>2024年9月</td><td>18</td></tr> <tr><td>2025年1月</td><td>23</td></tr> <tr><td>2025年5月</td><td>32</td></tr> <tr><td>2025年9月</td><td>33</td></tr> <tr><td>2025年12月</td><td>42</td></tr> </tbody> </table> <p>※TODA西日本・manaby西日本との合計数</p>	期間	登録者数	2023年12月	18	2024年5月	16	2024年9月	18	2025年1月	23	2025年5月	32	2025年9月	33	2025年12月	42	<p><b>Papageno</b></p> <p>■「パパゲーノ Work &amp; Recovery 用賀」は、開設直後から利用希望者を順調に獲得</p> <p>■事業所の立ち上げ期間を大幅に短縮し、開設1年未満で既存事業所と同水準の利用登録者を確保</p> <p>パパゲーノ用賀 利用登録者数推移の比較</p> <table border="1"> <caption>パパゲーノ用賀 利用登録者数推移の比較</caption> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>登録者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1ヶ月</td><td>9</td></tr> <tr><td>3ヶ月</td><td>14</td></tr> <tr><td>5ヶ月</td><td>18</td></tr> <tr><td>7ヶ月</td><td>26</td></tr> <tr><td>9ヶ月</td><td>30</td></tr> <tr><td>11ヶ月</td><td>33</td></tr> <tr><td>13ヶ月</td><td>40</td></tr> </tbody> </table> <p>既存事業所</p>	期間	登録者数	1ヶ月	9	3ヶ月	14	5ヶ月	18	7ヶ月	26	9ヶ月	30	11ヶ月	33	13ヶ月	40
期間	登録者数																																
2023年12月	18																																
2024年5月	16																																
2024年9月	18																																
2025年1月	23																																
2025年5月	32																																
2025年9月	33																																
2025年12月	42																																
期間	登録者数																																
1ヶ月	9																																
3ヶ月	14																																
5ヶ月	18																																
7ヶ月	26																																
9ヶ月	30																																
11ヶ月	33																																
13ヶ月	40																																



2026 AHC GROUP INC.

三つ目は、資本業務提携の成果についてです。

就労移行支援の「manaby」業態につきましては、既存事業所のリニューアルを実施するとともに、就労移行支援事業におけるサービス品質及び競争力の向上に注力してまいりました。

その結果、利用登録者数及び就職者数はいずれも大きく増加しております。

また、就労継続支援B型の「パパゲーノ」業態につきましては、新たに用賀事業所を開設いたしました。

開設直後から利用者登録は順調に推移しており、既存事業所と比較して、立ち上がり期間を大幅に短縮することができました。

以上が、2025年11月期における主要な取り組みの成果となります。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日(金)  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

3.2026年11月期 通期業績予想 | 連結業績予想 | 20

- 2025年開設事業所の立ち上げと、福祉事業所を中心に事業所開設を行い、事業の拡大を図る
- 売上高は7,242百万円(前期比8.7%増)、営業利益は175百万円(前期比60.9%増)、経常利益は165百万円(前期比30.1%増)と予想

	2025年11月期 実績 (2024/12~2025/11)		2026年11月期 予想 (2025/12~2026/11)		前期比 増減額	前期比 増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	6,660	100.0%	7,242	100.0%	582	8.7%
営業利益	108	1.6%	175	2.4%	66	60.9%
経常利益	127	1.9%	165	2.3%	38	30.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1	0.0%	92	1.3%	91	-



2026 AHC GROUP INC.

続いて、2026年11月期の通期業績予想についてご説明いたします。

2026年11月期につきましては、前期に開設した事業所の早期立ち上がりに注力するとともに、引き続き福祉事業を中心とした新規事業所の開設を行い、事業規模の拡大を図ってまいります。

通期業績予想につきましては、連結売上高は前期比8.7%増の72億4,200万円、営業利益は1億7,500万円、経常利益は1億6,500万円を想定しております。

3.2026年11月期 通期業績予想 | 連結業績予想 (推移) | 21



2026 AHC GROUP INC.

連結業績予想の推移についてご説明いたします。

今期につきましては、新規事業所の開設及び開設に伴う各種費用の発生を見込んでおりますが、資料に記載のグラフのとおり、売上高及び経常利益はいずれもプラスで推移するものと想定しております。

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日(金)  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

3.2026年11月期 通期業績予想 セグメント別 売上・利益予想 22

■ 福祉事業は前期開設事業所の立ち上げと「就労継続支援型事業所」等の施設型事業所の出店を強化

■ 介護事業は稼働を維持しつつ、効率化を進め収益改善を推し進める

■ 外食事業は新規店舗の開店と、加工・物流事業の外部販売を強化し拡大を図る

		2025年11月期 実績 (2024/12~2025/11)	2026年11月期 予想 (2025/12~2026/11)	前期比 増減額	前期比 増減率
		金額	金額	(単位:百万円)	
福祉事業	売上高	3,748	4,156	407	10.9%
	営業利益	219	299	79	36.3%
介護事業	売上高	1,563	1,581	18	1.2%
	営業利益	△1	27	28	-
外食事業	売上高	1,347	1,504	156	11.6%
	営業利益	88	65	△23	△26.3%
調整額	売上高	-	-	-	-
	営業利益	△197	△216	△19	-
計		6,660	7,242	582	8.7%
		108	175	66	60.9%

調整額：各セグメントに帰属しない全社費用及びセグメント間取引消去



2026 AHC GROUP INC.

続いて、セグメント別の売上高及び利益予想についてご説明いたします。

福祉事業につきましては、就労継続支援B型をはじめとした事業所を中心に出店を強化してまいります。

介護事業につきましては、引き続き事業所運営の効率化に取り組み、収益性の改善を進めてまいります。

外食事業につきましては、新規店舗の開店に加え、食材の外部販売の拡大を図ってまいります。

これらの前提を踏まえたセグメント別の業績予想は、以下のとおりです。

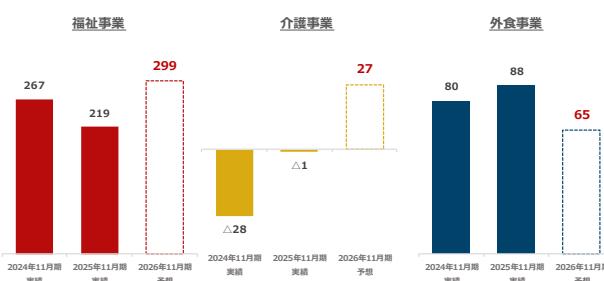
福祉事業の売上高は前期比10.9%増の41億5,600万円、営業利益は2億9,900万円を想定しております。

介護事業の売上高は前期比1.2%増の15億8,100万円、営業利益は2,700万円を想定しております。

外食事業の売上高は前期比11.6%増の15億400万円、営業利益は6,500万円を想定しております。

3.2026年11月期 通期業績予想 セグメント別 利益推移 (営業利益) 23

(単位:百万円)



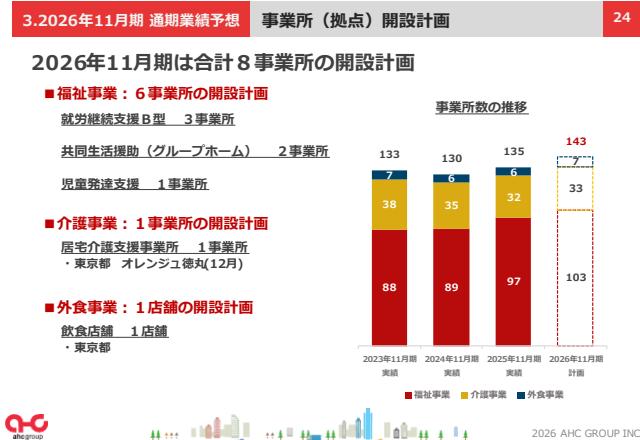
2026 AHC GROUP INC.

セグメント別の営業利益予想の推移につきましては、資料に記載のとおりです。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日（金）  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>



続いて、新規事業所の開設計画についてご説明いたします。

2026年11月期につきましては、合計8事業所の開設を計画しております。

内訳といたしましては、福祉事業において、就労継続支援B型を3事業所、共同生活援助を2事業所、児童発達支援を1事業所の開設を予定しております。

また、介護事業では居宅介護支援を1事業所、外食事業につきましては新たに1店舗の開店を計画しております。



続いて、今後の成長戦略についてご説明いたします。

2026年11月期につきましては、資料にお示ししているとおり、大きく三つの柱を成長戦略として推進してまいります。

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日(金)

7083 東証グロース市場

<https://ahc.co.jp/ir/>

#### 4.成長戦略

#### 人材の採用・教育

27

##### 多様な人材の採用と階層に応じた成長を促す教育

- 多様な人材の獲得とマネジメント層・中堅層・新規入社層各々の成長を促進させる教育によりグループ全体の成長へ貢献

###### (1)採用の強化

- ・継続して新卒・中途採用を強化  
(多様なチャネル、手法を活用)
- ・外国人人材の積極的な採用
- ・特定技能外国人人材への自社支援サポートで定着を強化

###### (2)教育の強化

- ・新規入社向け研修の定期開催により業務スキルの向上、帰属意識の醸成
- ・外国人人材対象の社内研修による定着促進
- ・幹部クラス・中堅層の研修の拡充による組織運営の高度化



2026 AHC GROUP INC.

一つ目は、人材の採用と教育です。

採用の強化につきましては、事業所の安定的な運営に向けて、新卒採用・中途採用の双方を引き続き強化してまいります。また、優秀な外国人人材についても、現地機関と連携した直接採用などを通じて、積極的に採用を進めてまいります。あわせて、採用後の定着を促進するため、自社による生活支援や業務サポート体制の強化にも取り組んでまいります。

教育面におきましても、重点的に取り組んでまいります。

新規入社社員や外国人、中堅・幹部クラスなど、キャリアや役割に応じたきめ細やかな教育・研修を実施し、専門性や業務遂行能力の向上に加え、当社グループとしての価値観や帰属意識の醸成を図ってまいります。

#### 4.成長戦略

#### 事業の拡大

28

##### 事業所の新規開設を継続して加速

- 「就労継続支援B型」を中心に8事業所の開設を計画
- 既存エリア（首都圏・中部エリア）での開設を加速

新規開設の推移



2026 AHC GROUP INC.

二つ目は、事業の拡大です。

今後も計画的かつ継続的に事業所の新規開設を進めてまいります。既存の出店地域を中心に、需要の高い業態の開設を進めることで、地域における福祉サービスのさらなる充実を図ってまいります。また、開設数の増加に備え、事業所開設までのプロセスを見直し、より効率的かつ円滑に複数の事業所を立ち上げられる体制の構築を進めてまいります。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日（金）  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

#### 4.成長戦略

#### 事業の拡大

29

##### 外食関連事業の拡大

- センターネットワーク社の取り組み、食材の外部販売を拡大
- 単なる食材の外部販売にとどまらず、事業の課題を深く理解し解決するパートナーとして取引先を開拓



2026 AHC GROUP INC.

外食関連事業の拡大につきましては、引き続き食材の外部販売の強化に注力してまいります。幅広い取扱品目と当社独自の物流サービス網を活用し、日本全国をカバーする体制を構築してまいります。PB商品の開発・提供を進めるとともに、各種メーカー・問屋・飲食店との橋渡し役としての機能を強化してまいります。

さらに、顧客の多様な要望にきめ細やかに対応できるビジネスパートナーとして、取引先の拡大を進めてまいります。

また、今後につきましては、当社グループの主力事業である福祉事業との連携を一層深め、就労継続支援B型事業所で生産した商品の取り扱いや、販売関連業務の委託などを通じて、障害者雇用のさらなる促進にも取り組んでまいります。

#### 4.成長戦略

#### DXの推進

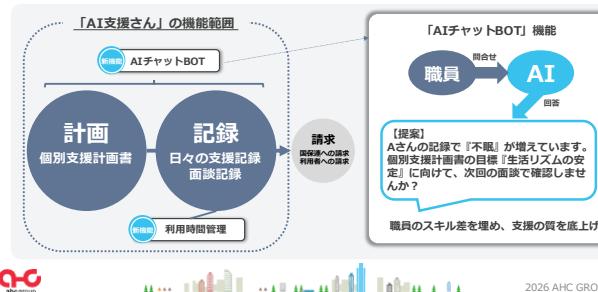
30

##### 「AI支援さん」の導入拡大

AI支援記録アプリ



- 新機能「利用時間管理機能」、「AIチャットBOT機能」を実装予定
- 機能拡充による提供価値の向上により導入拡大の促進



2026 AHC GROUP INC.

三つ目は、DXの推進です。

自社開発の「AI支援さん」につきましては、機能の高度化を図るとともに、導入の拡大を進めてまいります。現場から要望の多かった利用時間管理機能やAIチャットボット機能などの実装を予定しており、より付加価値の高い製品へと進化させてまいります。

今後も継続的に需要の高い機能を追加実装することで製品価値の向上に努めるとともに、利用シーンの拡大を図り、より多くの現場への導入を推進してまいります。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日（金）  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

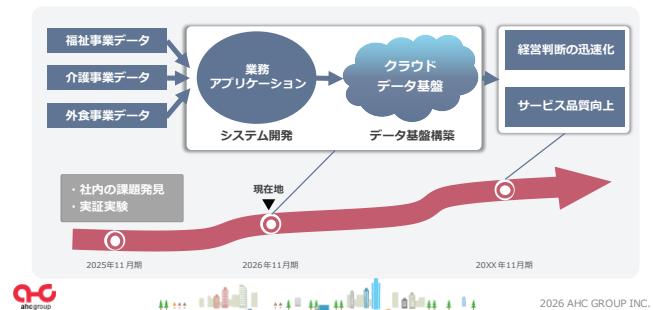
#### 4.成長戦略

#### DXの推進

31

##### 全社データ統合基盤の構築

- 社内に散在するデータを「資産」として一元管理、全社横断的なデータ統合基盤を構築
- 生成AIとクラウド技術によるシステム開発



社内DXにつきましては、社内データの管理を一元化し、生成AI及びクラウド技術を活用することで、必要な部署が必要なときに、無駄なく効率的にデータを活用できる環境の整備を進めてまいります。これらの取り組みにより、迅速かつ的確な経営判断を可能とする体制を構築してまいります。

以上が、2026年11月期における主要な取り組みとなります。

以上をもちまして、2025年11月期決算説明を終了いたします。

ご視聴いただき、誠にありがとうございました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

AHC グループ株式会社 | 2026年2月6日（金）  
7083 東証グロース市場 | <https://ahc.co.jp/ir/>

#### 重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報及び指標情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為及び行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものですが、フィスコは本レポートの内容及び当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものではありません。お客様が本レポート及び本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文及びデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポート及びその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコ及び関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062東京都港区南青山5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443 (IRコンサルティング事業本部)

メールアドレス：[support@fisco.co.jp](mailto:support@fisco.co.jp)